5　成　果

少子高齢化や単身世帯の増加に伴い、犬をペットとして飼うことの需要が高まっている半面、飼い犬トラブルや、災害時の飼い犬対策の問題が発生している。これらの問題点を「犬のしつけ」をコンセプトとして解決する方法を3回の講習会で提案した。

第1回 「災害時、犬はどうなる？！」

東日本大震災の被災ペットの現状を知りそこから教訓を得て、緊急災害時のペット問題に対する事前準備として「しつけの必要性」に気づいていただくことを目的とする。

第2回 「あなたと犬のきずなは？」

犬のしつけ教室を通じて、犬の習性を理解するとともに、「しつけの重要性」に気付いてもらい、それを実践することにより愛犬との豊かな生活を送ってもらうことを目的とする。

第3回 「犬の達人になろう！」

第1部　市役所に寄せられている犬に関する苦情を提示し、解決法として適切な飼い方、「しつけの重要性」を提案する。また災害時に備えて、ペットのために飼い主が準備すること、準備する物を提示する。

第2部　適切なしつけ、訓練のできた犬の訓練、実技を見ることで、飼い犬に対する接し方が変わること、「しつけの重要性」に気づくことを目的とする。

以上のように3回の講習会を開催することにより、「飼い犬へのしつけの重要性」を意識づけることができた。

課題・提言

１．講習全体から見えてきた課題・提言

① 飼い主の実態把握の必要性

３回の事業を通じて４０代、５０代が多く、続いて６０代、７０代の高齢者の参加もあり、中高年の参加者が多かった。定年を迎え時間的余裕が出来た、子供が独立した、健康維持の為等の理由が考えられる。それに引き替え２０代、３０代の子育て世代の参加は少なかった。今回の結果のみで、犬の飼い主に中高年が多いと言い切ることは出来ない。しかし、高齢者と若い犬の組合せはトラブルの原因となりやすい。それぞれの年齢、体力にあった犬を選び、主従関係をしっかりと築き、きちんとしつけをして飼う等を指導することが必要だと考える。飼い主の実態を把握することは、今後情報周知対象の絞り込み、トラブル予防、災害時の対策、周知する情報内容など様々なケースで役立つと考える。

② 犬仲間を作る必要性

しつけ、健康管理その他様々な情報を得るために、また災害時に備えて、飼い主同志のつながりを作ることが必要と考える。また、すでに各広場、公園を中心に小さい規模ではあるが、活発に活動している犬仲間が存在すると推測される。それらを掘り起こし、ネットワーク作りすることを提案する。そのためには飼い主同志が知り合える場所、イベントを催すなどの工夫が欲しい。

③ 災害に備えた対策、情報周知の必要性

飼い主は災害時犬がどうなるのか、様々な点で不安を抱いている。同行避難が出来るのか?支援物資が届くのか？何を準備しておけばいいのか？準備しておくべき事は何なのか？静岡市の対応はどうなっているのか？どこに問い合わせればいいのか?等々である。一日も早い新しい想定でのペットの防災システムの構築が必要と考える。また情報周知のための行政主催の講習会開催を提案する。

④ 犬を飼う前に必要なこと

犬を家に迎える前に、準備しておくべき「もの」と「こと」がある。どんな犬が自分の家庭には合うのか？誰が世話をするのか？必要な道具は何か？どのくらいの費用がかかるか?どんなしつけが必要か？などの情報を提供する必要がある。「もの」と「こと」の両面の準備をしてから犬を迎える事が出来れば、トラブルを未然に防ぐことができるだけでなく、より犬のいる生活を楽しむことができることを知って欲しい。パンフレットの作成、講習会の開催等、行政主導で獣医師、ペットショップ、ブリーダ

一等を巻き込んだ取り組みを提言する。

⑤ 初めて犬を飼った人対象の講習会の開催

初めて犬を飼った人を対象に、犬を取り巻く法律、健康管理、しつけ、飼い主のマナーについての無料講習会を定期的に開催することを提案する。空前のペットブームの中、情報誌を含む犬関係のビジネスが多いにも関わらず、犬の本能、習性を理解することなく、甘やかした結果、飼い犬の問題行動に悩む飼い主はあとを絶たない。今回の講習会でも自分の犬に困り、しつけの方法を知りたくて参加した飼い主が数多く見られた。他人に迷惑をかけない犬にしたい、きちんとしつけをしたい、犬との生活を楽しみたいと願いながら、咬む、吠える、引っ張る、健康管理などに困り、どこに相談していいのかもわからないとの声が多かった。新たに犬を登録した際に呼びかける、市広報誌の無料相談の欄に掲載する等して参加者を募り、動物指導センター等、行政主導で獣医師、ペットショップ等民間を巻き込んでの講習会開催を提言する。

2．協働パイロット事業への課題・提言

① 市広報誌への掲載の必要性

講習会全３回を通じて、多くの受講者が市広報誌を見て参加していた。これは市広報誌が市内全域に配られており、いかに情報が市民に行き渡っているかを示している。我々が市広報誌掲載にこだわってきた理由であり、協働事業の成果の一つと考えられる。今後も市広報誌掲載を積極的に取り入れて欲しい。第２回目は希望した号に掲載されなかったため、電話申し込みが短期間に集中した結果、電話がつながらず希望者に迷惑をかけ、苦情が来るというトラブルが発生したことは残念であった。

② 市役所会議室へ犬を連れて入ることについて

今回の講習会で第１回目、第３回目は会議室での講義であった。「犬の会」としては応募の段階から犬を市役所会議室へ連れて入ることを強く希望していた。犬のトラブルは飼い主だけの問題ではなく、社会全体の問題と位置づけるためには市民が集まりやすい市役所会議室で、クレートに入った犬達を配置して講習会を開催することが必要だと考えたからである。再三、市役所会議室に犬を連れて入ることのメリット、そのために万全の準備をすること、過去にも他市市役所で犬を連れて入り講習及びデモンストレーションを行った事実を示して訴えた。しかし残念ながら、許可をいただくことはできなかった。

清水市での開催を希望した第１回目では、あちこちの施設を探したが、許可を得られ

たのは清水文化センターのみであった。アンケート結果からもわかるように、講義開始前からクレートに入れられ、一度も姿を見せることのなかった２匹のモデル犬の存在が講義に次いで「とてもよい」の評価を得た。きちんとしつけがされていれば、迷惑をかけることなく会場に置いておくことができる事を参加者に理解していただいた結果と考える。清水文化センターのご理解、ご協力に感謝したい。第３回目は市役所静岡庁舎での開催であったが、残念ながら犬を連れて入ることへの許可をいただくことが出来なかった。講義開始前に犬たちが整然と現れ、「ハウス」の命令でクレートに入り、講義が終わるまで静かにしているところを見せることが出来れば、より大きな成果を得たであろうと残念だ。

③ 協働パイロット事業についての提言

「協働パイロット事業は委託契約であり、市が成果を買うというもので、いわば掃除の契約と同じです。掃除の場合、用具、人材、費用などは一切問題でなく、要はきれいになったという成果だけを求めるからです。」これは７月協働パイロット事業が始まると言うときに、事業について担当者から聞かされた説明だ。実に的確で、わかりやすい説明であったが、同時に失望したのも事実である。決して清掃作業を軽んじるわけではない。しかし、協働と言いながら、掃除を委託した側とされた側というのでは、到底対等の立場で手を取り合って、一つの問題解決に向かって行くという姿勢は感じられない。

募集のチラシを見て、これまで大きな壁であった行政と共に、事業を展開できると期待を抱いて応募した。面接官も大変好意的であった。しかし担当者から聞かされたのは上記の説明であった。市役所会議室に犬を連れて入ることは再三要望したにもかかわらず、規則を理由に許可されなかった。静岡市の協働パイロット事業とは限られた枠の中での協働であり、未だ壁は取り払われずに存在していると言うことなのだろうか？

④ 会計報告についての提言

今回の事業で約２５万円の資金を提供いただいたことに大変感謝している。これまで経済的理由でできなかった清水市文化センター、駿府公園、町中の青葉イベント広場での講習会を開催することができ、通りがかりの人たちにも見ていただくことができた。また、ペットの防災についての専門家を講師に迎えることもできた。しかし、２５万円の資金を提供しながら、会計報告が不要と言うことに疑問を抱く。税金を使うのであれば、会計報告を義務づける必要があると考えられる。